

— 欧米が認めた至高のタクト —

ついにヴェールを脱ぐ

サー・ドナルド・ラニクルズ

ドレスデン・フィルとともに
2026年初夏ついに
日本のステージへ

メトロポリタン、ウィーン、
バイロイト、スカラ座……

主要歌劇場を掌中に収める真の巨匠。

サー・ドナルド・ラニクルズ

(ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団 首席指揮者)

Sir Donald Runnicles, Chief Conductor

©Simon Pauly

サー・ドナルド・ラニクルズ 指揮 ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団

- 6/22 (月) 19:00 東京芸術劇場コンサートホール ◆
- 6/23 (火) 19:00 ミューザ川崎シンフォニーホール ◆
- 6/25 (木) 19:00 サントリーホール ★
- 6/26 (金) 19:00 文京シビックホール 大ホール ◆
- 6/28 (日) 14:00 横浜みなとみらいホール ★

亀井聖矢 ◆



©Ryuya Amao

櫻本大進 ★



©Keita Christopher

公演の詳細はこちらから

6/22・23・25・28 は
こちらから



6/26 はこちらから



*Sir Donald Runnicles,
Chief Conductor
Dresdner Philharmonie*

主催：ジャパン・アーツ (6/22・23・25・28) 文京シビックホール (公益財団法人文京アカデミー) (6/26)

ドイツ音楽の真髄を体現する指揮者 サー・ドナルド・ラニクルズ

(ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団
首席指揮者)

ドイツ音楽を『ことば』として操る――



©Oliver Killig

今期よりドレスデン・フィルを率いる「巨匠」ラニクルズ。 世界が熱狂した指揮者、運命の初来日。

2025年11月14日、ドナルド・ラニクルズのドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者就任コンサートが行われた。本拠地の文化宮殿（クルトウアバラスト）の正面には、「Welcome Sir Donald」の文字が大きく並び、街ぐるみで新しいシエフを歓迎する意向を感じた。

その期待は満たされたというべきだろう。前半はヴォーン・ウィリアムズ《トマス・タリスの主題による幻想曲》とウォルトンのヴィオラ協奏曲というラニクルズお国ものの英国音楽を鮮やかに、そして後半はブラームスの交響曲第4番をドレスデン・フィル特有のほの暗い音色で堪能させてくれた。

終演後、楽屋を訪ねると、少しクールダウンしたラニクルズに話を聞くことができた。「私たちは3日間、とても充実した日々を過ごしました。言うまでもなくブラームスはドレスデン・フィルの得意とする分野ですが、ヴォーン・ウィリアムズとウォルトンはそうではありません。でも、試したことはすべて実現したので、今とても幸せな気持ちです。満員の聴衆を前に、私たちの間には新しいエネルギーも生まれていましてよ」

ラニクルズとドレスデン・フィルの出会い、比較的最近の2022年12月、マーラーの交響曲第3番のコンサートだったという。「稲妻に打たれたような衝撃でした。彼らが演奏に注ぐ情熱と、私の指示に耳を傾けてすべてを実現しようという姿勢に感銘を受けました。そのコンサートのおかげで、私は今、首席指揮者としてここに立っているのです」

となれば、6月の来日公演でブラームスと並ぶメイン曲、マーラーの交響曲第1番もおおいに期待できそうだ。忘れてはならないのは、ラニクルズがオペラ指揮者として膨大な経験の蓄積をもつこと。非ドイツ出身者でありながら、ドイツ語はほぼネイティブで、ドイツ・オーストリア系の音楽を「ことば」として理解できる人なのだ。

この2025/26年シーズンはラニクルズにとつてドレスデン・フィルとの活動の幕開けであると同時に、2009年から16年にわたって務めてきたベルリン・ドイツ・オペラ音楽総監督としての締めくくりでもある。このインタビューの2日後、彼はベルリンでワーグナーの楽劇《トリスタンとイゾルデ》を指揮することになった。一体どうやって、シンフォニー

とオペラの活動を両立させてきたのだろうか。



©Oliver Killig

「トリスタン」を指揮するには、確かにエネルギーが必要ですが、十分なスポーツドリンクと適切な食事（笑）。でもそれは私にとって「仕事」ではありません。時々オーケストラピットに入る前にこう思うんです。「ああ、ブラームスの交響曲なら40分ぐらいで終わるのに」と。《トリスタン》は、その5倍以上の長さですからね。でも、演奏が始まると私は完全に音楽に夢中になります。そして音楽が私を引き込む。ホバークラフトのように、ただ持ち上げられて水の上を滑るように進む……。そんな感じでしょうか。そして、5時間におよぶ《トリスタン》（全3幕）が終わると、私は第4幕も指揮できるほど元気になっています。そう、音楽はエネルギーを奪うのではなく、私にエネルギーを与えてくれるのです！」

若々しく情熱的に語るラニクルズを前に、筆者は圧倒される思いだった。そして、このラストは71歳で今回初来日を果たすのだという。ドレスデン・フィルとの記念すべき日本デビューをどうぞお聴き逃しなく。

取材・文：中村真人
（音楽ジャーナリスト／ベルリン在住）

サー・ドナルド・ラニクルズとは…

1. 「左利き」の巨匠：指揮者の世界では非常に珍しい、左手に指揮棒を持つスタイル。
2. 騎士（ナイト）の称号：2020年に音楽界への多大なる貢献を認められ、エリザベス女王（当時）からナイト（KNIGHT BACHELOR）の称号を授与された。2004年には大英帝国勲章（OBE）も受章している。
3. 世界を股にかける活躍：一つのポストを長く務め、組織と深い信頼関係を築く「誠実な巨匠」。ベルリン・ドイツ・オペラ：音楽総監督（2009-2026）。サンフランシスコ・オペラ：音楽監督を17年間（1992-2008）歴任。BBCスコティッシュ交響楽団；出身地の楽団。首席指揮者（2009-2016）を務め、現在、桂冠指揮者。そのほか MET、ウィーン、バイロイト、スカラ座などの主要歌劇場で客演。

サー・ドナルド・ラニクルズ指揮 ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団

《ソリスト》 亀井聖矢（ピアノ）出演 ◆ 榎本大進（ヴァイオリン）出演 ★

- 6/22（月）19:00 東京芸術劇場コンサートホール ◆
- 6/23（火）19:00 ミューザ川崎シンフォニーホール ◆
- 6/25（木）19:00 サントリーホール ★
- 6/26（金）19:00 文京シビックホール 大ホール ◆
- 6/28（日）14:00 横浜みなとみらいホール ★

そのほかの公演

- 6/19（金）福岡シンフォニーホール（アクロス福岡）
- 6/20（土）ザ・シンフォニーホール（大阪）
- 6/21（日）愛知県芸術劇場コンサートホール
- 6/27（土）所沢市民文化センターミュージズ アークホール

問合せ

- ジャパン・アーツぴあ
(6/22・23・25・28)
0570-00-1212
- シビックチケット
(6/26)
03-5803-1111